



第三十九号

発行日 令和二年十二月一日
 発行者 石高神社 宮司 高原 章兆
 発行所 岡山市中区円山八五三
 電話 〇八六一二七七―九〇〇三

新型コロナウイルス感染症の早期収束をお祈り申し上げます

正月行事におけるコロナ対策

基本的には、人との接触を避け、距離を一メートル確保することが必要ですが、実際には困難なことが予想されます。発熱や倦怠感などのある方には外出を控えていただき、マスクを着用し、大声での会話を控えれば、距離を確保しなくても境内では問題ないと考えられます。皆様のご協力をお願い申し上げます。

拝殿への昇殿につきましては、一度に椅子三列十五人以内となるように人数制限をしますとともに、祈祷時間の短縮を行い、昇殿時間の短縮に努めます。新年祈祷と厄除けその他の祈祷が混在すると、待っていたく時間が増えます。したがって、厄除けその他の祈祷は、混雑が予想されます元旦を避けて、できるだけ二日以降に分散参加されますよう、ご協力を願ひ致します。毎年

七日までは、宮司は社務所に待機していただきますので、お申しつけください。

その他、手水と鈴緒の使用中止、御神酒拝戴の中止、高濃度アルコールでの手指の除菌、授与所での透明ビニールカーテンの設置などの対応を図ります。また、御神札は年末から準備していただきますので、早めにお求めください。



三密回避
 マスク着用
 除菌、分散
 新しい生活様式

拝殿等屋根葺き替え

拝殿東西の屋根瓦の落下が懸念され、釣殿では雨漏りがしています。これらを修理すべく令和元年から屋根葺き替えのためにご寄進をお願い致しましたところ、氏子の皆様方から今年十月末の時点で五百六十六万円のご浄財を賜りました。誠にありがとうございます。しかしながら、未だに目標額の半分程度しか集まっていない状況です。今年に入ってから、新型コロナウイルスの影響

響もあって、それどころではない世相となっています。

早々にご寄進を賜りました皆様方には、心苦しいのですが、工事はしばらく先に伸ばさざるを得ません。ご了承を賜りますとともに、引き続きご支援をよろしくお願い申し上げます。

なお、一万円以上御寄進をしてくださいました方々の御芳名を、随身門に掲示させていただきます。

神社の起源

⑤

神仏分離と戦後

明治新政府は、近代国家を打ち立て、欧米列強の仲間入りを果たすために、天皇中心の国づくりを実現しようとしてきました。その手段として、神仏分離令を発令し、神道と仏教を完全に分離して、神社神道を国家の宗祀としました。江戸時代には、幕府の庇護を受けたお寺が、民衆の戸籍を管理するなどして公共機関のような役割を果たしていました。明治以降には、神社が国家機関となっていきました。いわゆる国家神道です。その思想は軍国主義と結びつくようになり、国民を統制するかたよった考え方として利用されてしまいました。

終戦後GHQ（連合国軍総司令部）の占領政策によって神道指令が発令され、国家と神道の結びつきが禁止されました。現在は個々の神社が宗教法人となり、神社本庁がまとめられています。

祭りその他の行事

◎歳旦祭および初詣

一日午前零時から行っていました歳旦祭は、諸事情により、初日の出遥拝後の午前七時半からに変更させていただきます。三が日の九時から夕方五時ごろまで、新年の家内安全祈禱を承ります。

歳旦祭 厄払い

令和三年から

歳旦祭を一日七時半からに変更します。その後新年祈禱を受けます。

厄払いは、二日以降に分散してお参りください。

◎どんど祭および古神札焼却祭

正月のお飾りのほか、古い御神札・お守りの焼却もを行います。古い御神札・お守りは、お祓いをしたのちに材

料を分別しますので早めにお納めください。また、鏡餅の入っていたプラスチック製の容器や金色の紙製三宝などは、家庭ゴミに出すようお願い致します。



◎厄払い・年祝い

厄年には、その年に災いが起こらないように、お払いを受ける慣習があります。男性四十二歳と女性三十三歳は、大厄とされ、前厄・後厄もあります。還暦以降は長寿をお祝する祝年があります。一般には節分のころまでにお参りします。表中の年は数え年です。

令和3年の厄年祝年

厄年祝年	生まれた年
女19歳	平成15年
男25歳	平成9年
女33歳	平成元年
女37歳	昭和60年
男42歳	昭和55年
還暦祝	昭和36年
古希祝	昭和27年
喜寿祝	昭和20年
傘寿祝	昭和17年
米寿祝	昭和9年
卒寿祝	昭和7年
白寿祝	大正12年
百寿祝	大正11年

◎夏祭り(輪くぐり)

毎年七月三十一日の晩です。茅の輪をくぐることによって、疫病を予防して健康に過ごせることを祈り、「ひとがた」に諸々の厄災を乗り移らせて退散させる祭りです。

◎秋祭り

毎年十月三日から五日の三日間です。このうち三日の晩が氏子参りの日になっており、夜店が出ます。五日には氏子総代が参列して祭典を行います。

その他、七五三詣で、初宮参り、当病平癒祈願、自動車清祓、家祈祷、地鎮祭、各種清め祓い、神葬祭など随時承っております。お電話でご相談ください。平素は宮司と権禰宜の二名の神職でご奉仕しています。

表参道周辺清掃御奉仕

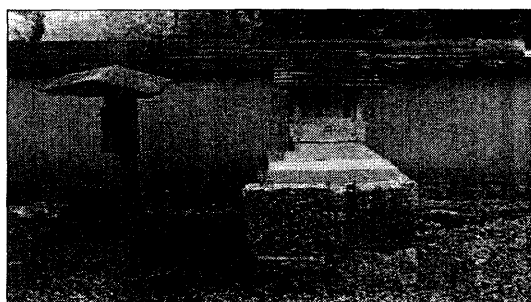
近くにお住まいの土井さんの御奉仕により、宮山の表参道周辺がきれいになっています。ご高齢にも拘わらず少しずつ草を刈り、木を切ってくださいました。有り難く感謝致しております。



天之御中主大神 御社の奉納

本殿裏の西側に新たに石を組んで社が設置されました。願掛け満願の御礼として奉納されたものです。以前には、遙拝所としてさい銭箱があるだけでした。

天之御中主（あめのみなかぬし）大神は、宇宙の始まりに高天原に最初に現れた神で、宇宙の根源神とされています。北極星・北斗七星に対する妙見信仰とも結びついています。



石高神社への道案内

当社の南側と西側には、石段の参道があります。自動車でお参りの場合には、宮山の東側を山に沿って進むと北側から山に上がる道があります。少し上った左側の空き地または本殿の裏に駐車できます。正月の昼間には混雑が予想されます。帰る方を優先に譲り合いをお願い致します。また、宮山の東北のカーブは見通しが悪いのでお気をつけください。

ホームページ <http://ishitakajinjya.web.fc2.com/>

